

平成19年度第1回木の国・山の国県民会議 発言要旨

日 時 平成19年6月5日(火) 13:30 ~ 15:45

場 所 議会西棟 第1会議室

開会あいさつ 古田 知事

- ・「生きた森林づくり」は、木の国・山の国岐阜の県政の原点である。
- ・林政部を作り、岐阜県森林づくり基本条例を制定、岐阜県森林づくり基本計画を策定し、ひとつひとつ体系立てて進めてきた。これも皆様方のご尽力のおかげである。
- ・昨年は第57回全国植樹祭を成功裏で終えることができた。岐阜県全体で盛り上がった。先般1周年記念を同会場で行った。天皇陛下からは歌、御製をいただき、石碑もできた。お手植えの木が1m以上そして、お手蒔きの苗が30~50cm成長している。感慨深いものがあった。
- ・4月には越県合併した中津川市馬籠で県のみどりの祭りを開催した。長野県知事をお迎えして植樹をした。
- ・委員の皆様には、具体的な政策のプロジェクトの推進、白書を作成、進捗状況の整理等にお力添えをお願いしたい。

(知事他の公務のため退席)

議 題

1 岐阜県森林づくり基本計画の推進に向けた取組について

(事務局説明：基本計画案、概要案)

発言要旨

事務局(県)発言(以下同じ)

(主な意見)

- ・県民に対する「木の良さ」等の普及啓発に関連して木造住宅コンクールの優良作品を掲載した冊子2万部を作成とあるが、これから作成するという点でよろしいか？
昨年木造住宅コンクールを実施したがとても皆さんの関心が高い。今年度もコンクール実施後(秋)に成果を含め作成する予定。
- ・「県民協働による森林づくりプロジェクト」の木づかい運動に県産材の活用を促進する運動とあるが、具体的にはどのような構想があるのか。
木づかい運動は、青少年の森林環境教育等いろいろな場を捉えて木にふれあう、森の大切さを学ばせるイベント、森林教室等を積極的に企画、開催していく。
- ・岐阜県は地域的広がりがある。近隣にモデル地区が設置しやすい東濃や飛騨だけでなく、岐阜地区など都市部でも小中学生が木や森にふれあうモデル、学校ごとに体験できることを考えていただけるとありがたい。
教育委員会と連携して、今以上に森林の大切さ木の良さを学ぶ場を設けていきたい。
- ・最近、住宅建築においては、統計上分譲型住宅の占める割合が増している。不動産ディベロッパーの企画、設計、施工される方の権限、影響力が大きいように思われるのでこれらの方にも県産材を利用した家づくりの働きかけが出来ないか。これにより県産材利用の促進につながるのではないか。
大手住宅メーカー、ディベロッパーに県産材を利用していただけるとはシェアが大きくなり好ましいこと。そこでそれらにも県産材の部材供給をしていくことを考えている。また、ビジネスミーティングにより部材の供給のあり方も検討を始めて

いる。在来の工務店向けには昨年度整備した木造住宅アドバイザー制度を活用しながら木材の良さ、県産材の利用について普及し、県産材の利用の拡大に努めていきたい。

- ・「豊かな森林を守っていく」、「B材C材を搬出する」、「大型機械を使用する」、いずれにしても山の基盤整備は「道づくり」が第一。具体的に岐阜県の路網密度、道づくりを将来的にどうするのか。伐採搬出だけの道ではなく、将来の森林管理にも使える道づくりが必要。
- ・山づくりは一時的に予算を増したり、人を増やしてできることではない。何年もかからないと結果が出ない。先を見越した山づくりのためには道づくりだけは進めないとだめ。

道については、今までの $m/h a$ という目標が山のための道であったのか考え直した。これからは、森林管理、木材生産のための道づくりを本格的に進めたい。「健全で豊かな森林づくりプロジェクト」のような形で道づくりの計画を地域ごとに立てて進める。「健全で豊かな森林づくりプロジェクト」を通じながら道づくりの方向性をはっきり打ち出していきたい。それを全県的に広げていくことで道づくりのあり方を示していけると考えている。

- ・私も全ては道に尽きると考える。間伐に比べ皆伐は生産コストが安いので、木が太くなってくると皆伐の誘惑に駆られる。九州・四国では、大面積皆伐が進められているが、岐阜県でやられると再造林はまず期待できない。したがって、林道網を充実して、間伐でも山林所有者にしかるべき収入がある仕組みを考えないとだめ。そのためには基盤整備、林道、作業道、出材のための軽路がぜひ必要。機械とともにこの部分には手厚い支援をお願いしたい。

大変厳しい財政事情である。林道より規格は落ちるが作業道を中心にして伸ばしていきたい。どのような道を通すのか、それも地域で考えていく。例えば市町村森林管理委員会（仮称）で市町村の道の全体計画を立て、効率的に安全な道を計画的に開設していく。このように進めたい。

- ・以前の会議で「木材価格を国材的な値段にしよう」という発言があったが、そうするためにも林道網、作業道の整備はかなり重点的に取り組まないとだめではないか。少し及び腰ではないか。

「健全で豊かな森林づくりプロジェクト」では $200m/h a$ の路網を整備する考え。現在は 10 数 $m/h a$ であるが、それを $200m/h a$ にしないとコストが合わない。ただし、今までの作り方ではなく、低コストでかつ崩れにくい道。このプロジェクトにより皆さんに徹底的にトレーニングしていただきそのノウハウを全県的に広げたい。今緒についたばかりである。

- ・市町村森林管理委員会（仮称）を県内全市に設置する方向性は良いが、県としての設置するための支援、作った後の支援について具体的に何かあるのか？

まずは、設置を目的に進めているが、各地域に配置したAG（林業改良指導員）が専門で、市町村、森林組合等と連携しながら実行部隊となって進める。金銭的支援は難しいが、人的支援で積極的に関わっていく。

- ・委員、組織のスキルアップを含めて支援が必要。何らかの誘導、指導がないと進まないところもある。

- ・いろいろな問題点、全てのことにお金が関わってくる。「企業との協働による森林づくりの推進」において、各市町村の森を守るために企業から資金の支援をしていただける方法、可能性はあるのか。

企業との森林づくりについては、企業から森づくりをしたい、支援をしたいと相談

を受けている案件もある。今後「企業との協働の森」に関する説明会も開催しながら進めていきたい。

議 題

2 県民協働による岐阜県森林づくり基本計画の推進について

3 基本計画の実施状況の公表・評価について

以上、議題2、3を続けて説明して、質疑に入る。

なお、専門部会の取組については各部会長より報告

木づかい部会 (山田副部会長)

普及・教育部会 (伊藤部会長)

森づくり部会 (中原副部会長)

(主な意見)

- ・県民が理解して参加する計画でないため。どのような森林づくりを目指していくのか。県民との共通認識の構築がまず必要。まずは、わかりやすく県民に示す。
- ・モデル団地の設定に関わる委員にも生産関係者だけでなく河川、地質、歴史、教育関係者などいろんな視点を持った方々の意見をいれ、示されると客観性が増し、わかりやすいのではないか。
- ・長良の地域で子供たちと自然体験教室を月2回開催しているが、「長良川ふれあいの森」には非常に立派な道がある。そんな道が必要なのか疑問。また、台風で倒れた松がそのままである部分がある。里山の整備保全がどういう計画がなされているのか。
- ・学校教育の中で、種から木を育て植えられたところがあるがそのまま。どう育てていくのか教育委員会と調整がされていないように思われる。縦割りではなく、横断的な組織で話をしていく場を設けてほしい。

- ・山づくりの話は一般の県民には難解な部分ではないか。それを山林所有者や不在所有者の方たちに、荒廃林が進んでいるからどうしようと言ってもわからないというのが実体。その辺をどうしていくか。
- ・そもそも山をなぜ持っているのか。有事、まつりごとがあった際に、まとまったお金となる資産であるから。
- ・100年200年という超高齢級の木は、専門林家ではなく、兼業の小規模所有者の山の方ができる可能性は高い。だからこそ山に対する木の育て方の議論は、ますます非常なギャップの中でやらなければならないという難しさがある。
- ・現在、中国の高度経済成長によりロシアカラマツ等が日本に入りにくくなり、東南アジアからの木も日本から中国の方へ流れていく。パルプも入りにくい状況。そういった中で大手メジャー資本の木材の買い付けブローカーが先日まとまった山の買い付けにやってきた。所有者は自分の山は銭にならないと思っているが、100万円でまとめて買うと言われれば、みんな(判を)押す。彼らは伐採届も出さない。それは既に九州でも経験済み。そういった差し迫った状況の中で、この委員会の果たす役割は非常に大きい。

かつての旧藤橋村の人々は炭を作って売って生業としていた。生活のサイクルが炭を中心としていた。今は石油文明である。外材の問題等により、木材は低迷し、所有者は山を守る気になれない。

・昨年12月に京都議定書の問題で二酸化炭素が3.9%削減しなくてはならないものが現実増えており、急遽森林が二酸化炭素を吸収する源だと大変な国家予算が付いた。二酸化炭素に貢献するという理由で間伐、治山事業、それ以外に作業道への使用がメニューづけられていた。

・この県民会議、1000人委員会も含めて現場でやっておられる方々の色々な意見、評価や点検を受けながら修正、追加をするなど柔軟な考え方で進めてまい

りたい。

- ・岐阜県は事業体も高性能林業機械の利用割合も他県より少ないのではないか。今後の高性能林業機械の導入、そのための路網整備をどのように計画的に整備していくか。
- ・四万十方式の道づくりがモデルになっているが、例えば岐阜県の黒ぼく土壌の地質の中で使えるのか。地形が急峻なところではどうしたらいいか、どちらかというとな細な事業体の中で高性能林業機械をどのように普及させていくのか、具体的に検討してP D C Aで進めていく必要がある。
- ・これからは全国的な製品の奪い合い、価格競争が展開されていく中で新生産システムをどのように使いながら、流通加工部門を整備していくかが大きい課題。新生産システムの目玉の一つで高山に製材工場を作っているが、具体的にどのようにユーザーに持っていか、価格はどうか、乾燥能力はどうか、安定供給はできるか等いろいろな課題がある。データなり目に見える形での検討をしてほしい。
 - ・機械については基本計画には生産チームという形での目標数値を掲げている。
 - ・路網の数値の掲げ方は、従来の路網密度が何mと県下平均にしても意味がない。
 - ・プロジェクトの中で試行錯誤しながらノウハウというものを5年間で全県的に広げる。
 - ・新生産システムは、高山森林組合が昨年工場をつくり、今現在稼働している。原木の供給体制がまだまだ不十分で、山から直接低コストでもってくる仕組みの構築が必要。
- ・1000人委員会に参加しているが、森林所有者、森林組合、行政、それからN P Oの方などいろいろな方が集まっているため、初めて知ったことや、目から鱗ということもあったが、なかなか議論が深まっていけない面がある。2回の委員会のうち1回は3つの専門部会と平行したような形でやっていくのはどうか。
 - ・1000人委員会については、焦点が絞りにくいところもあるので、テーマを絞った形での開催も検討していきたい。
- ・先ほどC O 2対策で、予算がかなり間伐にもおりてきているという話があったが、現場では請負の単価は上がるどころかどちらかというと下がってきている。県で標準単価を設定しているが、実際には標準単価以下で受注しているところが多い。そうすると質の低下を招く。お金を有効に使うという意味合いも含めて、末端まで有効にお金が使われているかということも、チェックしてほしい。
 - ・歩掛は変えていないが賃金が昨年に比べて下がったため標準単価も少し下がっている。結果的に予算があるのに現場ではそれほど上がらないということに繋がっているのではないか。
- ・山を守っていくには人がいる。人を永久的に使っていこうとすると、どうしても安定した仕事と収益が伴わないと難しい。
- ・毎年付く予算の実施や事業、職員の給料、退職金、年金を考えてやっっていこうとすると、いい仕事だけをやるわけにはいかない。普及指導もあり、事業に繋がらないこともでてくる。その辺も考慮して山づくりの一環として考えてもらいたい。
- ・岐阜県の特徴ある山づくりをしていくべきである。それぞれの地域によって今まで培ってきた技術、やり方があるので、それらを考えて採択してもらいたい。差別はいけませんが区別はしてもらいたい。特徴のある岐阜県の山づくりを目指していただきたい。
- ・人づくりも森林づくりも長期的展望にたって考えないとだめ。教育は100年ですが山づくり、森林づくりも100年先それこそ1000年先のことを考えなくてはいけない。ハードの部分も大切だが、ソフトの部分も大切にしながら、森林環境教育をもっと私たちが手がけていく必要がある。自然の中で体験活動をさせていくことの重み

というものを、もっともっと私たちが考えなくてはならない。

- ・岐阜県にはかけがえのない自然があるということの良さを、広く啓発して森と文化性をタイアップさせていけば、いろいろな取り組みが可能になる。森林の総合利用や一学校一森林づくりということも非常に大切な部分である。ぜひこれも進めていただきたい。
- ・山と森と文化、文化性の部分をもっと必要になってくる。それは心に通じることであり、感性を育てるということに繋がっていくので、この部分を強調しながら、その辺りへ切り込んでほしい。
- ・山の荒廃・CO₂など現在多くの問題がある。そんな中で、第37回岐阜県みどりの祭りや下呂の生きた森林づくり大会に各々3000人以上の人が参加し、非常に盛況であったが、残念ながら一般県民の木や山に対する関心はまだ薄い。
- ・岐阜県は、針葉樹だけでなく、広葉樹でも他県に比べて素晴らしい木が沢山ある。日本の森林貯蓄量は約40億m³といわれ、年々増加している。使うことに何の問題もない。岐阜県も同じである。
- ・基本計画の実施結果の評価の一つに、県民の目線による評価方法を導入しているのは大変よい。しかし、PRが足りない。PRをすれば森づくりにしても家づくりにしても、皆さん自然と力が入ってくる。評価者の意識も自ずと違ってくる。
- ・そのPR方法として、県、市町村など全ての公的な施設(県下に数百か所あると思う。)を利用してPRができないか。民間が絶対手が出せない公的な施設を通して何らかの形でPRすることを提案したい。普段目に触れることが最も大事だと思う。
- ・山を身近に感じられる人たちをいかに多く巻き込んでいくかが課題。
- ・岐阜県の方は水には非常に敏感だが、山とか森には鈍感である。どうしたらいいか。見せるしかない。しかし、学校の先生たちにもわからない。我々も森の善し悪しを子どもたちに伝えるのは非常に難しい。
- ・私は森の中でそこにいる昆虫や魚などの生物を見せる。そうした場を提供していくことも森林づくりプロジェクトの中にいれてほしい。皆さんに理解してもらえることが重要。
- ・それから基本的には森林は我々の生活圏から離れているので皆関心がない。お金、経済という観点をいれないと関心を持って貰えない。二酸化炭素の取引に関してお金が動くのであればそれでも構わない。皆伐するなら皆伐するで構わない。ただ皆伐した後でどうなるか、それでマイナスのお金が出てくるところも全部評価に含めることも必要。プロジェクトについて、全てお金に換算してほしい。経済効果、あるいは地元に対して、補強的な投資による災害防止効果など、総合的に見たお金の動き方をしっかり説明することで、このプロジェクトの正当性を県民にアピールすべきである。

閉会あいさつ 渡辺林政部長

配布資料一覧〔PDF〕



平成19年度第1回木の国・山の国県民会議 開催状況